

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

〈小学校第6学年 市内16校 861人〉 〈中学校第3学年 市内8校 803人〉

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
  - ・小学校【国語・算数】 中学校【国語・数学】
- ②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

(4) 実施日 令和3年5月27日（木）

【今年度調査の特徴】

※令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症に係る休校等の影響を考慮し、実施がなかったため、本年度は2年ぶりの実施  
 ※可能な限り、多くの児童生徒が同じ条件で参加できるように、例年より約1ヶ月遅れの日程で実施  
 ※平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題に変更

学力調査結果

平均正答率(%)

小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	62	63	64.7
算数	69	70	70.2

中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	64	62	64.6
数学	57	56	57.2

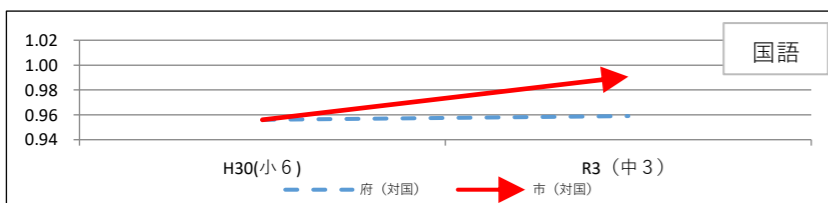
無解答率(%)

小学校	富田林市	大阪府	全国
国語	4.3	4.7	4.3
算数	2.1	2.5	2.6

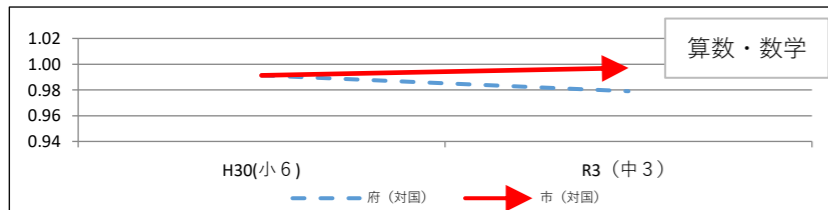
中学校	富田林市	大阪府	全国
国語	4.5	5.3	4.4
数学	11.1	12.8	11.2

小6から中3にかけて

下のグラフは、本年度の中学校3年生について、平成30年度に小学校6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果と、本年度の調査結果を比較し、富田林市の平均正答率と全国公立の平均正答率との差がどのように変化したかを表したものです。 ※H30(小6)の数値はA問題とB問題の平均値



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●H30	60	60	62.7
◆R3	64	62	64.6



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●H30	57	57	57.5
◆R3	57	56	57.2

各教科の状況

※ ( ) 内の数値は全国平均 ○・・・全国平均を顕著に上回った内容 △・・・全国平均を顕著に下回った内容 ※ ( ) 内は問題番号

小学校	領域	富田林市 平均正答率(%)
国語	話すこと・聞くこと	77.6 (77.8)
	書くこと	57.5 (60.7)
	読むこと	44.6 (47.2)
	言葉の特徴や使い方	63.4 (68.3)

小学校国語・・・話すこと・聞くことは全国と同等。

○目的や意図に応じ、資料を使って話す。〔1三〕

△文の中における主語と述語との関係を捉える。〔4(2)〕

→筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えたり、目的に応じて書き方を工夫しながら、自分の考えを書く活動が重要である。

小学校	領域	富田林市 平均正答率(%)
算数	数と計算	61.1 (63.1)
	図形	54.4 (57.9)
	測定	73.9 (74.8)
	変化と関係	76.0 (75.9)
	データの活用	75.3 (76.0)

小学校算数・・・変化と関係は全国を上回る。

○二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。〔1(1)〕

△8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。〔1(2)〕

→問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場合を理解したり、除法の結果の意味を理解することが重要である。この際、除法の結果について日常場面に即して判断することや除法の意味について理解すること、少数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現する必要がある。

中学校	領域	富田林市 平均正答率(%)
国語	話すこと・聞くこと	76.8 (79.8)
	書くこと	57.5 (57.1)
	読むこと	46.1 (48.5)
	言語等の知識や理解	76.9 (75.1)

中学校国語・・・書くこと、言語等の知識や理解は全国を上回る。

○相手や場に応じて敬語を適切に使う。〔4三〕

△参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。〔1三〕

→話し合いは、話すことと聞くことが交互に行われるところにその特徴がある。その際、話し合いの題材や方向を捉えることや質問の意図を捉えること、話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることが重要である。

中学校	領域	富田林市 平均正答率(%)
数学	数と式	66.7 (64.9)
	図形	50.5 (51.4)
	関数	55.3 (56.4)
	資料の活用	53.5 (53.8)

中学校数学・・・数と式は全国を上回り、資料の活用は全国と同等。

○整式の加法と減法の計算ができる。〔1〕

△平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる。〔9(1)〕

→図形の性質を考察する場面においては、解決の方針を立てること、事象に即して解釈したことを数学的に表現すること、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することが重要である。

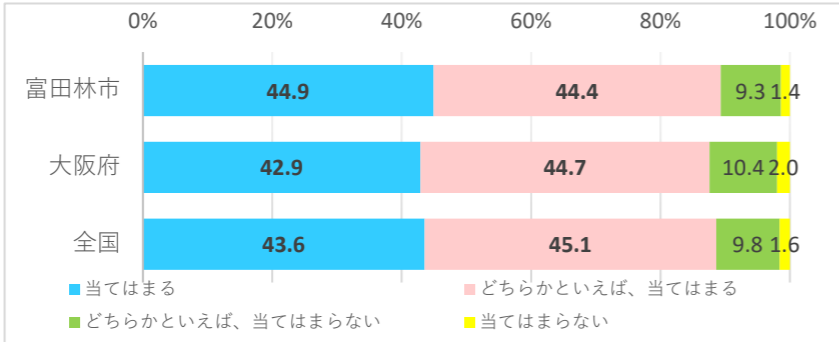
通過率

通過率\*：全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における本市の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したものを。

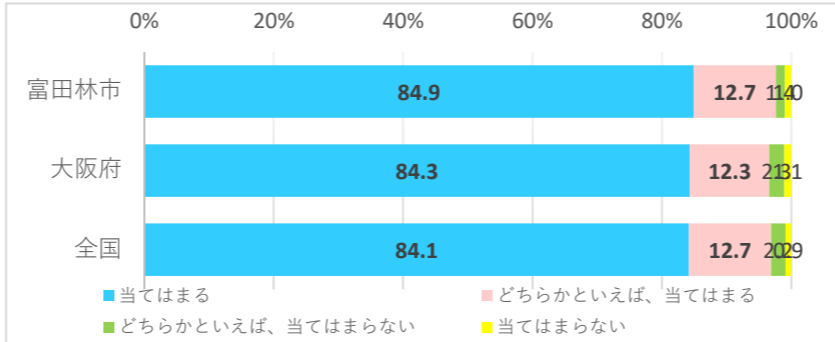
小学校	国語：全国70%以上7問	通過率 富田林市7/7問 (大阪府7/7問)	中学校	国語：全国70%以上8問	通過率 富田林市8/8問 (大阪府6/8問)
	算数：全国70%以上8問	通過率 富田林市8/8問 (大阪府8/8問)		数学：全国70%以上6問	通過率 富田林市6/6問 (大阪府5/6問)

児童生徒質問紙

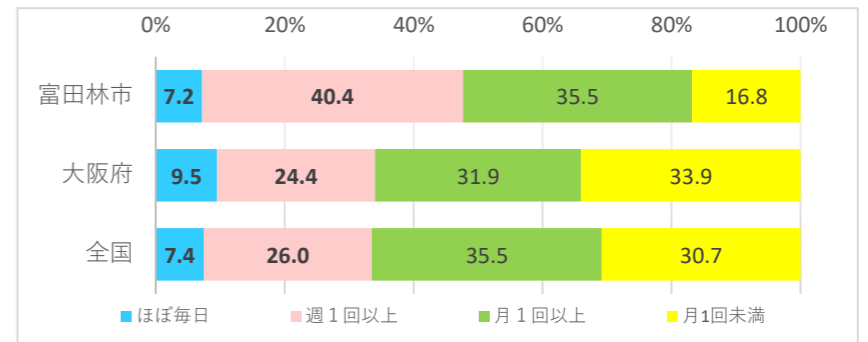
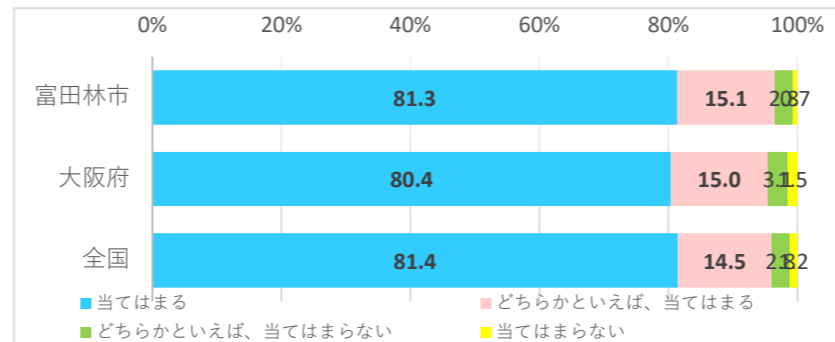
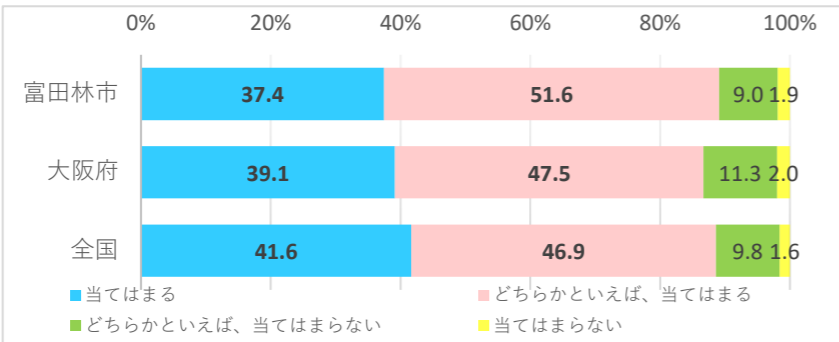
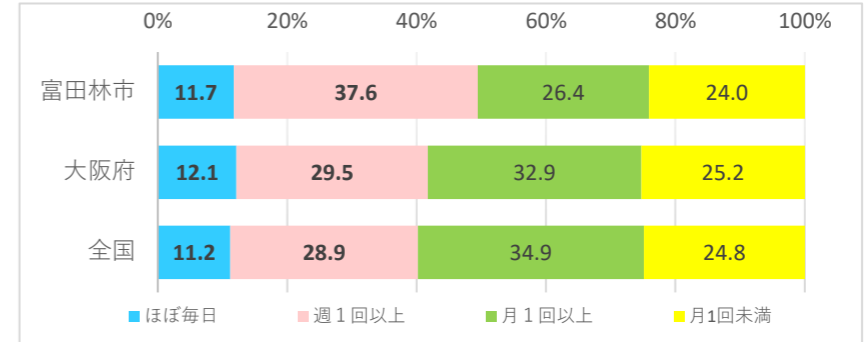
○人が困っているときは、進んで助けていますか



○いじめは、どんな理由があってもいけない



○授業でICT機器をどの程度使用しますか



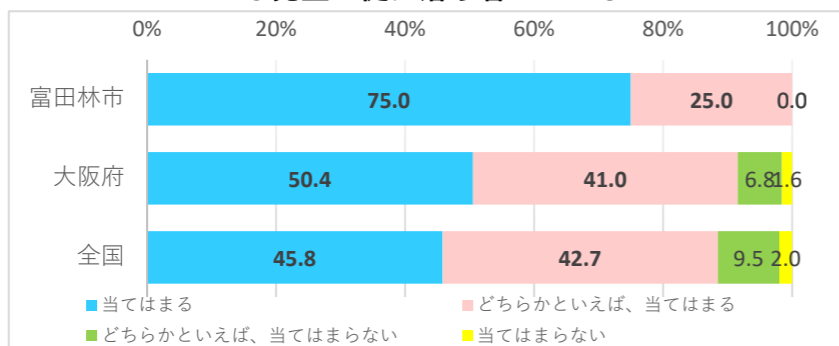
・「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、小中学校とも肯定的回答が全国を上回っている。

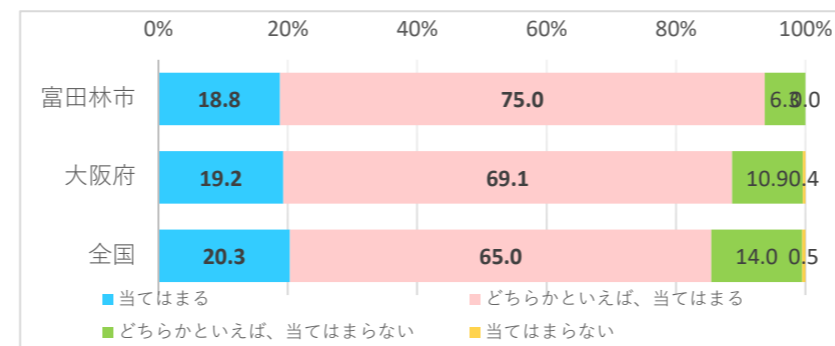
・「授業でICT機器をどの程度使用しますか」という質問に対して、小中学校とも週1回以上の回答が全国を上回っている。

学校質問紙

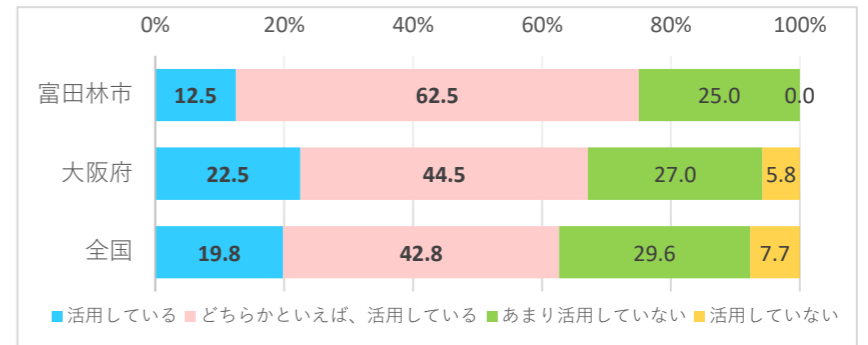
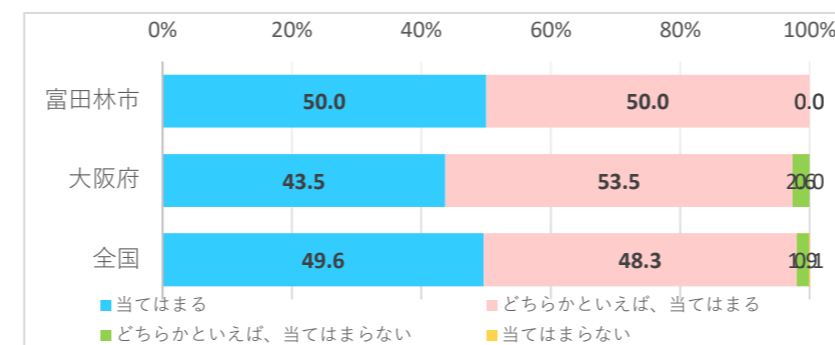
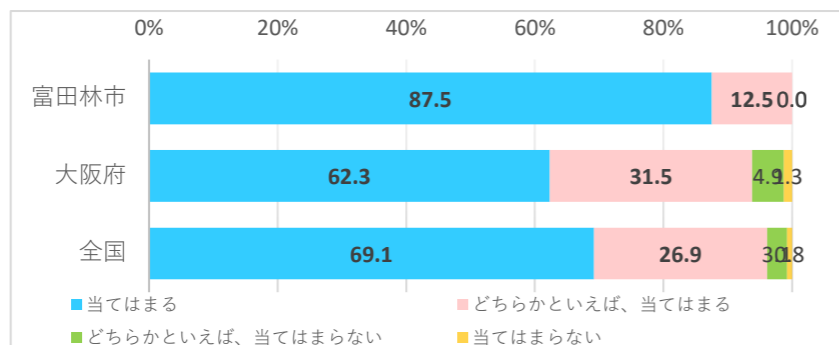
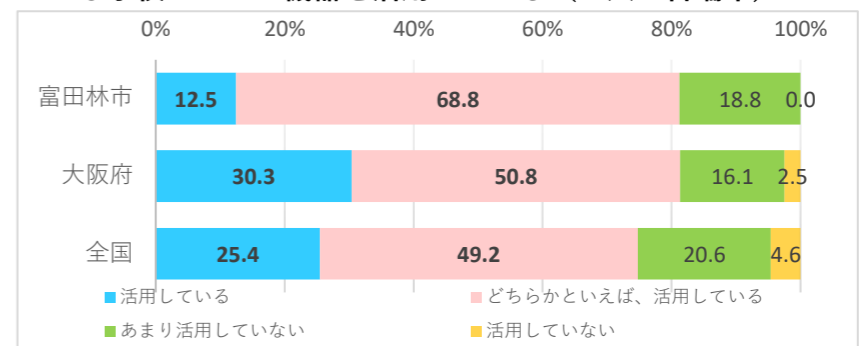
○児童生徒は落ち着いている



○将来の仕事や夢について考えさせる指導をしている



○学校でICT機器を活用している（1人1台端末）



・授業中の私語が少なく、落ち着いていると回答する学校が全国より多く、特に強い肯定的な回答が全国を大きく上回る。

・将来の仕事や夢について考えさせる指導をしていると回答する学校が全国より多く、特に中学校で強い肯定的な回答が多い。

・1人1台端末を活用している学校が全国より多く、活用していない学校がない。